

ラーニングコモンズの在り方(案)について

- 平成27年1月28日(水)
- 名古屋大学附属図書館
- 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会実践事例普遍化小委員会

- 神戸大学附属図書館 内島秀樹
- huchijim@port.kobe-u.ac.jp

ラーニングコモンズの在り方(案) 下記の各項目別に執筆の意図を説明

- 1 始めに
 - 2 前提
 - 3 LCとは何か
 - 4 LCの目的
 - 5 自立的な学修(主体的な「学び」)のために必要な学生のスキル
 - 6 LCで想定される学習活動及び支援
 - 7 LCを構成する要素
 - 8 LCを整備する建物(場所)及び組織の単位
 - 9 LCの拡張と進化
 - 10 LCの具体的な構成要素(例示)
 - 11 LCの方針
 - 12 大学図書館の今後のサービスについて
- 別添 LCチェックリスト

1 前提

大学図書館は、大学の一組織として、その使命、すなわち教育、研究、社会貢献の3つの活動に貢献することが求められている。LCは、大学教育の充実に資するための活動の1つであり、その実現にあたっては、経営層や教育担当部署などとの学内合意形成が欠かせない。こうした認識に立ちつつ、本稿では、大学図書館が主体となって提供する新たな教育・学習支援サービスの1つとして、LCの在り方を提案する。

意 図

ラーニングコモンズは、大学図書館が推進するというスタンスを明確にした。ただし、ラーニングコモンズは新しい教育の方法と密接に関連する仕組み(その一部)であるため、学内の経営陣、関連部署、関連教員との連携や相互理解が不可欠である。

2 LCとは何か 3 LCの目的

2. LCとは何か

LCとは、学習者中心(Learner-Centered)の新たな教育方法(Pedagogy)の広がりと要請を踏まえて、授業時間以外に学生が行う自学自習や協同学習(授業に関連した学習及び授業に関連しない学習の両方を含む)など様々な学習形態へ適応するために大学図書館等が提供する学習環境(施設、設備及び情報・コンテンツ)と、この学習環境の活用を通して学生の主体的な「学び」を促す仕組み(人的支援)の総体を指す。

3. LCの目的

各大学の教育目的を実現するため、経営層や教育担当部署との認識共有及び連携を通じて、学習者中心の教育の不可欠な構成要素となることにより、主体的な「学び」を理解し、自立した学習活動を行う学生を養成することである。

意 図

ラーニングコモンズは、新たな教育環境や教育手法への図書館側の戦略的な対応であり、場所の整備を通じた学生の主体的な学びを促す仕組みの総体を指すものである。場所の整備は協同学習や主体的な学習を促すための本質的要素だが、目的は、主体的な学習や協同学習を促すという教育それ自体への関与である。場所の整備で終わる、のではなく、場所の整備から始まる、ということを通理解として確認したい。

4 自立的な学習のために必要な学生のスキル

以下の4つのスキルは、いわゆる21世紀型のスキルに概ね対応する(脚注参照)。

- (1) 学士力を構成する不可欠の能力
 - ① 情報リテラシー
 - ② アカデミックスキル
- (2) コミュニケーション能力・コミュニティ形成能力
- (3) その他

意 図

LCの目的である大学図書館の教育への関与が目指す学生像(能力)を示すこと。もちろん、これらは現在の教育が目指している学生像(能力)であり、その育成に大学図書館がコミットすることを明示したい。共通な能力以外にも大学により多様な能力があり得る。

*** コミュニケーション能力**

*** 上記学士力は学士力の一部**

5 LCで想定される代表的な学習活動及び学習支援

- (1) 情報機器や電子的なリソース、図書館資料等を利用した自学自習活動
- (2) 協同学習やグループ学習による新たな形式の「学び」
- (3) 自主的なコミュニティ活動
- (4) 情報リテラシー及びアカデミックスキルの養成(教職員や学生等による支援活動)
- (5) その他

意 図

目的に沿った代表的でかつ本質的な活動を例示したもの。活動はこれに限らないので、大きな教育目的に向けて創造的な活動を各大学で促すことがもっとも肝要。(1)は図書館中心主義のように見えるが、LCの目的に照らして、情報ニーズの把握とその再構成は主体的な学習の要にあるものであり、欠かせないと考える。*** 北米の情報コミュニケーションコンセンサス**

6 LCを構成する要素

- 6-1 場所としてのLC
- 6-2 アカデミックリソースとしてのLC
- 6-3 人的リソースとしてのLC

意 図

LCの定義及び目的に従い、LCとしての必須の構成要件を、アメリカのビーグルの定義に基づきながら、記述。これらを一カ所でワンストップで提供するのがベストだが、不可能ならば、他の施設や組織と複合的に提供することもありえる。*** 逆に言うと、他の組織がLCを立ち上げる場合も、図書館(のリソースなど)は不可欠の一部になる。**



Donald Beagle

Director of Library Services, Belmont Abbey College

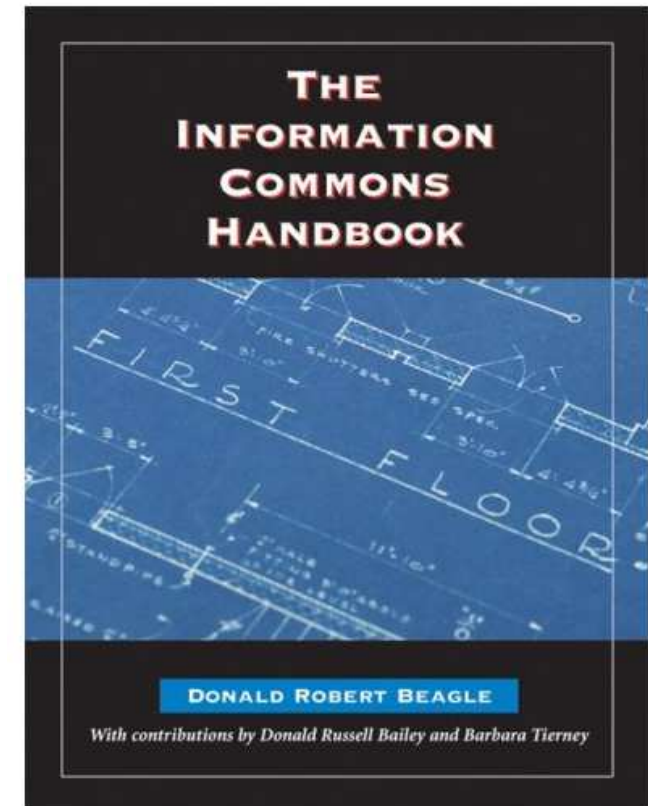
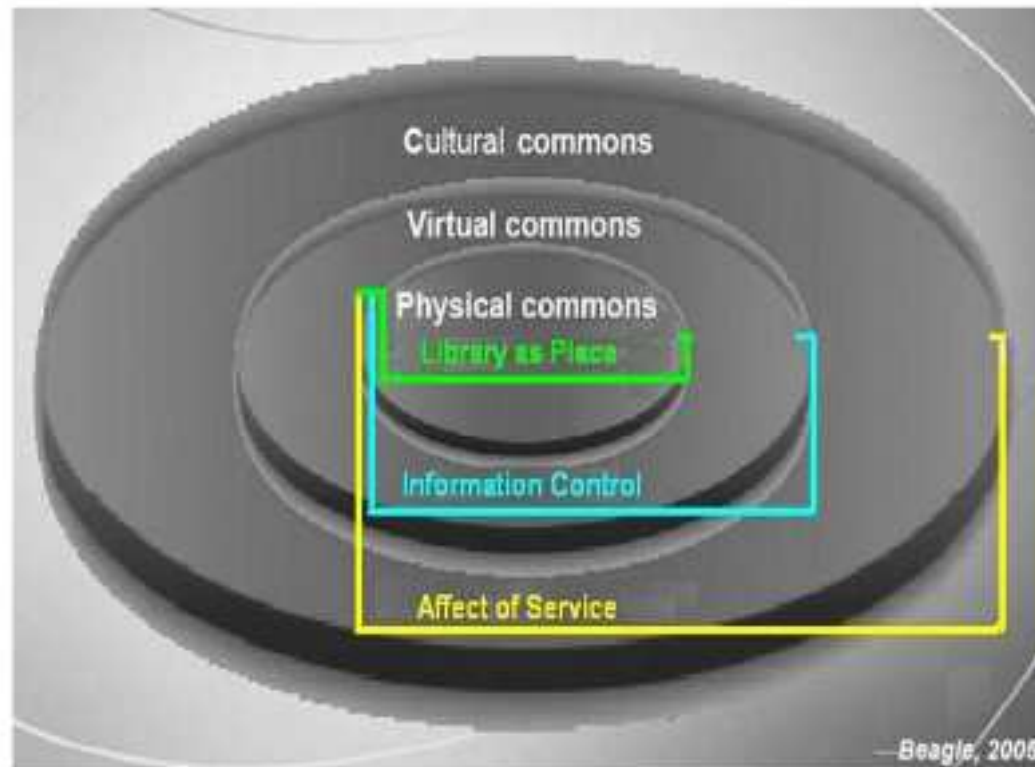
Learning Commons, digital humanities, metadata visualization, digital curation

Verified email at bac.edu



from <http://scholar.google.com/citations?user=bJHC9qAAAAAJ&hl=en>

Figure 2. Three-Domain Diagram



From Donald Beagle 'The Information Commons Handbook'
(New York: Neal-Schuman Publishers Inc., 2004)

7. LCを整備する建物(場所)及び組織の単位

LCは6に述べた3つの要素から構成され、授業外において自学自習を可能にする諸機能を一括して提供する。学生にとって、もっとも使いやすくかつシンプルなLCは、一つの物理的単位(建物あるいはフロアー)に設置され、ワンストップで全サービスが提供されることである。本稿では、最適なLC設置場所を大学図書館とする。

意 図

場所、アカデミックリソース、人的リソースの3点を揃え、特定部局に限らない学内横断的な共有(=コモンズ)施設としての図書館をワンストップサービスの設置場所とすることを、大学図書館の立場としたい。しかし、仮に図書館外に設置する場合、上記の3要素を揃えることが必要であり、組織・施設間の連携により、仮想上のワンストップサービスを提供することもあり得る。

8 LCの拡張と進化

LCは固定したものではなく、教育と学習者のニーズに応じて、拡張と進化がありえるため、サービスや施設・設備の提供において十分にフレキシブルであるべきである。

LCの拡張にあたっては、いくつかの方向が考えられる。(中略)学内の担当部署との連携は必須である。これらの連携は、LCの設置段階で実現されることもあり得るし、図書館単独のプロジェクトとして設置されたLCの拡張・進化として段階を踏まえて実現されることもありうる。教育(授業)との関連付けの強化と連携の進捗とともに、LCで提供されるワンストップサービスは拡張・深化することが可能になる。

意 図

教育関連部署や担当教員等との連携が制度化され、大学図書館が教育の一部となることにより、LCは十全な機能を果たすことができる。この連携をどのように実現するかがLCの拡張と深化を本質的に保証する。一度、場所を整備したら終わりではなく、場所としてのデザインや人的支援を環境の変化と利用者ニーズに対応して柔軟に変えていくことが重要であることを確認したい。

9 LCの具体的な構成要素(例示)

- (1) 物理的なリソース (例示)
- (2) アカデミックリソース (例示)
- (3) 人的リソース (例示)

意 図

LCを構成する要素ごとに整備対象を列挙。これらは基本は例示である。LCの目的を意識し照準を合わせることがもっとも重要であり、その目的に向けて整備すべき什器、設備、部屋のデザイン、人的支援は各大学が個性を発揮して独創的なLCを創造することが前提。***ただし、最低これ位は整備した方がいいという基準値は別途チェックリストで明示。**

10 LCの方針

LCは学習者中心の教育方法に基づきながら、所属する機関の教育目的に合わせて個別の目的を持ちうる。LCは目的とそれに沿った利用について、明示された方針を持つことが望ましい。方針は以下の項目から構成される。

- (1) LCで期待される活動についての記述。教育目的に沿った記述。
- (2) LCで可能な活動についての記述。より具体的な利用者向けの利用細則。
- (3) 提供される人的サポートについての記述。
- (4) その他

意 図

LCの目的とそれに沿って期待される活動を緩やかに明示する。シラバス等で示される授業目的と同じようにLCの目的を大学の方針として学生に示したい。ただし、当然であるが、利用者に対する細則としては、「**をすべき」ではなく、「**ができる」というスタンスで明示し、自主的な活動を促すべき。

11 今後の大学図書館サービスについて

(前略)本稿のLCの定義及び目的に従うならば、図書館のサービス目的(の1つ)は、こうした学術情報の利用サポートというサービス機能の提供(=支援)を超えて、情報リテラシーやアカデミックスキル、コミュニケーション能力という観点から学生の学士力を養成することに一歩踏み込む(=教育)ことが必要である。(後略)

意 図

LCは場所の整備に始まり、学士力(の一部)養成に終わる。この観点から、大学図書館のサービス、本質的機能を、教育への関与にシフトさせることを提言したい。この提案全体の趣旨はこのような図書館サービスの進化を、LCの戦略的な展開として各大学で个性的に図っていくことを共通理解とすることにある。

別添 LCチェックリスト

添付したチェックリストは、各大学で、LCの大きな目的に合わせて現状や過不足を認識し、今後の展開を意識するためのツールである。

各大学の事例などを収集して共有し、各大学のLC活動の参考とするためのツールともなる。

可能ならば、国公私立の大学がWikiなどにより横断的に共有を図ることが望まれる。(提案)

最後に一言

- ラーニングコモンズの在り方(案)を念頭におきながら、お二人の講師の講演を聞き、また分科会でのディスカッションを進めて欲しい。
- ラーニングコモンズに関する大枠(意義、目的等)を共通理解とすることを今回のシンポジウムの目的としたい。
- 頂いた意見や今回のシンポでの事例・討議内容等については「在り方案」を含む委員会の最終報告書に出来る限り反映します。